

音にて額の字なるべし、神社の額に似たるよりの名歟。

〔剪花翁傳前編三〕紫陽花 三種、色紅白藍、開花四月中旬、形梨花のごとき、英數十箇、群簇て、徑三寸餘の房となる、開けば、徑四五寸ばかりになる也、又八九寸許になるもあれども、插花にはとらず、方日向、地土えらばず、肥大便寒中入へし、春彼岸より、淡小便三五度そ、ぐべし、摺さし春彼岸よし、移うつ正月うら中、升水の方は、切口を焼へし、同種に、班入葉あり、

〔萬葉集二十〕同月十一日、左大臣橘卿宴、右大辨丹比國人眞人之宅歌三首

安治アチ佐サ爲キ能ノ夜ヤ敵ヘ佐サ久ク其ゴトク夜ツ都ヨ爾ヲ伊イ麻マ世セ和ワ我ガ勢セ故コ美ミ都ツ都シ思シ努ノ波ハ牟ム

右一首、左大臣寄、味狹藍花詠也。

〔散木弄詞集夏〕殿下にて夏夜の月をよめる

あぢさゐの花のよひらにもる月を影もさながらおる身ともがな

土常山

〔重修本草綱目啓蒙十三〕常山略○中
土常山ハアマチャ、別ニ絞股藍アルユヘ、木アマチャトモ云、一名甜葉延平、三百頭牛藥發明、城州

ノ宇治田原ニ園ヲナシテ栽ユ、諸州深山ニモ亦多シ、木ノ高サ二三尺、葉土牛膝イコツチ葉ニ似テ、狭ク鋸齒アリ、葉ノ末紫色ヲ帯ビ、兩對ス、五月枝ノ梢ゴトニ花アリ、形蝴蝶ガサ花ニ似タリ、碎小瓣ノ花内ニ攢簇シ、外ニ四瓣ノ大花トリマキ開ク、數色アリ、外碧ニシテ内白キ者、内外碧色ナル者、外白ク内淺紫ナル者、外碧ニシテ内淡紫ナル者、内外白キ者、内外淡紅ナル者アリ、葉ヲ採リ蒸シ、採テ青汁ヲ去リ飲トス甚甘シ、今四月灌佛ニ供スル者コレナリ、又一種形同シテ葉甘カラザル者アリ、コガクト云、土常山ノ一種ナリ、大和本草ニキアマチャノ一名トスルハ非ナリ、

洩疏

〔倭名類聚抄二十〕洩疏 本草云、洩疏一名楊榼洩音所流反、和名宇豆木、

〔箋注倭名類聚抄十〕千金翼方、證類本草下品有洩疏、不載楊榼之名、證類本草引陶隱居云、李云、洩